

【優秀賞】

高齢者向け金融教育チーム「出張知るぽると号」

～プロボノとボランティアの二人三脚～

専修大学商学部

佐藤 夏実

吳 焱晶

(提言の要約)

現在の我が国の長い不景気を脱するひとつの手段として、預貯金に偏向している資金の流動性を高める方法が考えられます。私たちは高齢者の財産に占める預貯金の割合が比較的高くなっていることに着目し、高齢者の保有する資金の流動性を高めることを最終目標とした金融教育プログラムを提案します。

高齢者の財産が貯蓄に集中してしまう要因として知識不足があると考えられ、知らないものには手を出したくない、トラブルが怖い、と考える高齢者が多いのが現状であります。しかし高齢者は金融知識について情報を入手しにくい環境にあり、インターネットにある情報や知識労働者が有する情報などが高齢者に行き渡っていないという問題があります。私たちはそれを解決するために高齢者向け金融教育プログラム「出張知るぽると号」を提案します。

知るぽると号とは、金融知識を有する退職者であるプロボノ（「船長」）と、インターネットに使い慣れた学生ボランティア（「クルー」）が二人三脚で行う金融教育チームのことです。船長は自らが現職時に培ってきた金融知識を利用して金融に関する講義を行い、クルーはその補助として告知活動や付随知識の収集を担います。講義以外にも「知るぽるとカモメ便り」を随時発行し、講義に参加しない高齢者に対しても情報提供を行うようにします。

このプログラムのメリットは、金融知識を有する退職者が講義するので、受講者にとっては安心して聞くことができるという点です。そして、船長との年齢も近いので話しやすいのではないかと考えられます。この結果、高齢者は正しい知識を得ることができ、安心して貯蓄を投資に回すことができると考えます。一方の実施する船長にとっても、退職後のセカンドライフを充実させる手段として有効に機能します。さらにクルーにとっては、年配者とのコミュニケーション能力の向上、自らの知識の増加、資料作成のスキルの獲得など多くのメリットがあり、結果的に社会に出た際に即戦力となるための力が身に付きます。

以上のプログラムを実施した場合、高齢者にとって老後を安心して過ごせる環境が整うと同時に、これまで預金に偏っていた資金が金融市場にも流れることにより資金調達環境が改善され、企業の活気が戻ります。さらに即戦力としての能力を手に入れた学生ボランティアが、社会に出て企業の競争力向上に貢献することも考えられます。このような若者と高齢者が協力して行う社会貢献活動により、これからの日本経済が健全な発展を成すことを願います。

1. はじめに

近年の日本経済は下降傾向に歯止めがかからず、長い不景気が継続した状況にあります。日本経済を活発にするためには、預貯金に偏っている資金の流動性を回復させて、経済を潤滑化することが必要であります。高齢者は財産に占める預貯金の割合が他の年代と比較すると高くなっているため、私たちはそれに着目し、高齢者が保有する預貯金の流動性を高めるにはどうしたよいか考えました。そして、その流動性向上に主眼を置いた、高齢者向け金融教育プログラムを提案します。

2. 投資への移行が進まない背景

我が国では高齢化が進んでおり、近年高齢化に伴う諸問題も顕在化し始めています。高齢化が進展した場合、高齢者は投資よりも貯蓄をする傾向が強いため（図表 1～3）、国内の資金の流動性が失われ、競争力が低下し不景気に頭を抱えている日本経済に、更なる悪影響を与えかねません。すなわち、今後の日本経済について考える上で、どのようにして高齢者が保有する貯蓄を投資へと誘導するかという問題は非常に重要になります。

貯蓄から投資へと移行するにあたり、まず必要となるのは知識です。金融資産に関する適切な知識を有していない場合、よく分からない金融資産に手を出すよりも預貯金として財産を保有している方が安全であると考えるのは自然なことであります。今、金融資産について関心を持っていない人に対しても、そのメリットとデメリットを適切に伝えることにより、投資へと移行する人も増えると考えられます。

また、高齢者が金融トラブルの被害者となるケースが増加しているという現状もあります（図表 4）。この問題を解決しない限り、高齢者が貯蓄から投資に移行する傾向というのはあまり期待できず、また、未解決のまま投資への移行を推進した場合、さらに高齢者が金融トラブルに巻き込まれてしまう恐れもあります。

金融資産について理解したり、金融トラブルに巻き込まれないようにしたりするためには知識が必要になります。若者はインターネットを利用して、自ら必要な情報を集め、その金融資産にはどのような特徴があるのか、どのようにトラブルを避けるか、誰に相談すべきなのか、トラブルに遭ったらどのように対処するかを知ることが容易です。また、高齢者の中でも、金融機関に勤務していた人は、金融資産に関する必要な知識を持っているため、トラブルに巻き込まれる心配もなく、有効な資産運用を行うことができます。それらの情報を知識のない高齢者も同様に入手することができれば、安心して資金を投資に移

行できると考えられます。

3. 高齢者がインターネットや専門家から知識を得られていない現状

ここで問題となるのは、高齢者がインターネットの情報を有効活用できていないという点です。若者は情報リテラシーの授業を受けており、インターネットで検索する環境も整っていて、必要な情報があればインターネットで検索すればよいこと、その中には適切ではない情報もあるということ、など基本的な利用の仕方を理解しています。しかし、高齢者の中にはインターネットの利用を嫌う人、苦手な人も多くいます。インターネット上の情報を有効活用するためには、インターネットの使用ができない高齢者にもその情報を伝達する必要があります。

また、高齢者の中でも金融機関に勤務していた人などは、必要となる知識を身につけていますが、それはその人だけの知識になっており、それを他の高齢者に発信する機会は少ないと考えられます。それまで社会経験を積んできた高齢者は様々な事象を見てきており、その知識が他に伝達されないのはもったいないと思います。

4. 「出張知るぽると号」の提案

(1) 提案の概要

そこで私たちは、金融機関等を退職したプロボノ（注 1）と、インターネットの利用に慣れている大学生ボランティアの二人三脚で運営する「出張知るぽると号」という仕組みを提案します。退職した団塊世代の方々は、豊富な知識や社会経験を有しており、彼らの中にはセカンドライフとしてボランティア活動を選びたいと考える人も増加しています（注 2、図表 5～6）。また、若者のボランティアに対する意識も高まっています。プロボノとボランティアが共同となり、知識難民となっている高齢者に対して必要な金融知識を提供しに行くという仕組みが出張知るぽると号（注 3）です。

プロボノは、ボランティアの意志のある金融機関の従業員や金融教育の経験のある先生・教授などの退職者で、彼らを「船長（注 3）」と呼びます。現預金、公社債、投資信託、保険・共済などのように講義科目を決めておき、船長は定期的に高齢者が集まる施設などに行って、特別講師として自らが有する知識を提供します。その講義では相談会も設けて高齢者からの相談にも応じられるようにしておきます。

ボランティアは、金融知識はないものの、ボランティアの意思があり、インターネットを使いこなしている人で、彼らを「クルー（注 3）」と呼びます。船長

による特別講義が開催される際には、その実施を知らせる広告（図表 7）の作成・配布を行います。講義の際には、船長の講義内容に合わせインターネットから最新の情報を収集し、船長の講義と合わせて情報発信します。

また、上記の特別講義とは別に、クルーは定期的に「知るぼると」の一部から情報をピックアップし、それを広告媒体により配布します。この広告を「知るぼるとカモメ便り（注 3、図表 8）」とします。その内容については船長のアドバイスや指示を仰ぎ、船長とも協力して作成します。

（2）「知るぼると号」の主要なメリット

この仕組みにより、年配者とのコミュニケーションが苦手であると言われていた若者は、船長とのやりとりを通して潤滑な意思疎通を行う練習の場ともなり、卒業後に社会に出た際にその経験を活用することができます。自ら調べる機会もあり、船長による講義を聞くことも可能であるため、自らも知識を習得することができます。また、退職した高齢者の中には、居場所がなくなって日常での目的や自らの責任というものが失われ、それを嘆いてしまう人もいますが、船長として自らの知識を活用するというボランティア活動を行うことで、自分の生きがいを見つけることも可能となります。さらに、知るぼるとの広告活動により、より多くの高齢者に対して優良なコンテンツを提供することが可能となります。受講する高齢者にとっても、専門知識のある人の講義であれば安心して聞くことができ、船長は退職した人が務めるため年代が近く話しやすいというメリットもあります。またクルーとの交流を図ることが可能なため若者と会話する機会も得られます。

5. 「出張知るぼると号」の実施例（図表 9～11）

（1）講義内容

高齢者向け金融教育プログラムである出張知るぼると号で取り上げるテーマは、基本的に高齢者にとって必要かつ身近な内容である必要があります。そこで私たちは講義内容として、身近でありトラブルにつながる危険性が高いとされている、現預金、公社債、投資信託、保険・共済の 4 つを提案します。

（2）「船長」の要件

船長は最低 4 名確保することとし、それぞれのテーマを専門としていた退職者をボランティアとして集めます。一言で金融機関に勤務していたと言っても様々な金融商品があり、それについて得手不得手があるので、船長が得意とするテーマについて講義を担当してもらいます。また、船長の資格を金融機関の

退職者に限定する必要はなく、大学等の研究機関を退職した人、一般企業の財務部門等に勤務していた人なども専門知識を有していると考えられるので、そのような人たちも船長となることができます。さらに、現職で仕事に就いているものの、社会貢献活動に関心があり船長として教育プログラムを行いたいと思う人も考えられます。退職者が船長であることに固執する必要性を考えた場合、講義を受ける高齢者から見たら船長の年齢は無関係です。しかし、このプログラムは、退職した知識労働者のセカンドライフの充実や、クルーの年配者とのコミュニケーション能力の向上というメリットも考えているため、出来る限り、退職者である方が望ましいです。

(3)「クルー」の要件

クルーは大学在学中であり、インターネットに使い慣れた社会貢献の意思を持っている人とし、人数は最低 8 名とし、それぞれ担当の役割分担を行います。この担当は随時変更してかまいません。同じ大学に在学している必要はありませんが、緊密に連絡を取るために船長も含めクルーたちはある程度近くに居住しているメンバーとします。クルーはその日の講義内容に合わせ最新の情報を収集する必要があるため、インターネットで適切な情報を取捨選択し、さらに船長と密な連絡を取って提供する資料を作成します。現在、大学卒業後にすぐに戦力となる人材が求められているため、このように船長と話し合いながら資料を作成することは社会に出たときにも役に立つと考えられます。また、上記でも示したように講義とは別にカモメ便りの作成も行います。

(4)「クルー」による講義

また、上記の 4 つの金融商品のほかに、「金融商品選びのポイント」、「金融トラブルの対処法」という講義も取り入れます。これらは特定の金融商品の知識を有している講師のみでは、他の金融商品特有の論点について補えないので、これらの講義はクルーが担うこととします。4 人の船長と連絡をとりながら、知るぼるとを中心とした情報サイトを参照して講義の準備を行います。この 2 講義については、クルーのみでの講義は内容に不適なものがある可能性もあるため、その日に同伴できる船長は出来る限り同席します。これによりクルーは人前に出てものを話す、という訓練もできます。

(5) 実施場所と実施頻度

実施場所は高齢者が集まる施設を想定しており、そこに知るぼると号のスタッフが赴くという実施形態を考えています。具体的には老人ホーム、コミュニ

ティ・カフェ、公民館などが挙げられます。受講者の年代は限定する必要はありませんが、金融教育を行うため痴呆や認知症を患っている方には向いていないので、50～70歳の方向けの講義となります。そのため、できるだけその年代の人が集まる場所を検討して行うことが必要です。

講義の頻度は4か月に1度ほどで進めていきます。すなわち、6つの講義が終わるのには2年かかるということになります。カモメ便りはそれと同頻度の4か月に1度とし、講義の日程と重複しないように発行します。この実施の間隔は遵守する必要はありませんが、クルーの負担と受講者の期待とを比較考量して、出来る限り日程通りに運営できることが望ましいです。

6. さいごに

我が国では高齢化が進んでおり、様々なアングルからその対策がとられつつあります。そのひとつとして、金融機関等を退職したプロボノと、インターネットの利用に慣れている学生ボランティアの二人三脚で運営する「出張知るぽると号」を実施すれば、安心・快適な高齢者の生活環境が整うと同時に、これまで預金に偏っていた資金が金融市場にも流れることにより、企業の資金調達が向上して企業活動に活気が戻ると考えられます。さらにこの教育によって即戦力としての能力を身につけた学生ボランティアが社会に出た際に、各々の業界でその経験を生かし企業の競争力向上に貢献できることも期待できます。これからの日本経済が、若者と高齢者が協力した社会的貢献とともに発展できればよいと願います。

【注】

（注 1）

プロボノとは、2010年頃から注目された新しいボランティア手法で、「知識労働者が自分の職能と時間を提供して社会貢献を行うこと」を意味します。プロボノは、「pro bono publico」を略した英単語で、ラテン語を語源とする形容詞です。直訳では「公益のために」(for the public good) という意味になりますが、実際の意味は「公益のために無償で仕事を行う」ことを指します。

公益の無償奉仕といえば、ボランティアが思い出されますが、ボランティアとプロボノとの違いは、従事者の職能を生かすかどうかにあります。狭義のボランティアは、従事者の能力を問わず「時間」(単純労力)のみを提供する一方、プロボノは、その人が自分の職業を通じて身につけた「職能」を提供します。

このような社会貢献の手法は、これまで弁護士やコンサルタントなどの限られた分野で一般的でした。しかし近年、プロボノ活動に従事する人の職業が、弁護士以外にも広がっています。NPOを通じた形でのプロボノ活動が普及しているが、日本型の新たなプロボノ活動の広がりが期待されています。

（注 2）

先日私用で日本科学未来館を訪れた際に、展示解説や実験補助をしていた高齢の方がいらっしゃいました。専門的な内容まで解説していらっしゃったので、スタッフかと思いましたが、退職後に未来館のボランティアとして活動されているのだとおっしゃっていました。このように、日本科学未来館では運営スタッフの一部にボランティアを活用しています。

（注 3）

知るぼるとの「ぼると」は「港」、「入口」を意味しているということなので、このプログラムを命名する際にひとつの船のような形で運営するイメージをしました。そこでこの金融教育チームを「出張知るぼると号」とし、それを運営するスタッフであるプロボノと学生ボランティアをそれぞれ「船長」、「クルー」と呼ぶこととしました。さらに、知るぼるとから一部抜粋した広告は、海を飛ぶカモメからの届け物をイメージして「知るぼるとカモメ便り」としました。

【参考文献】

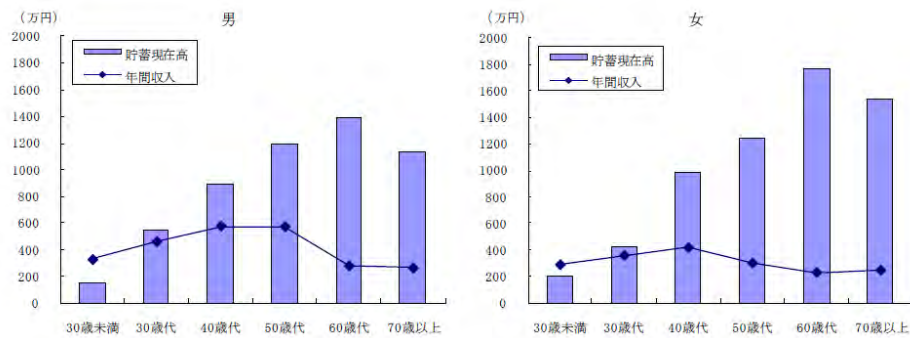
- 日経 BP ネット「プロボノ ～職能を生かす新ボランティア」
<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20100219/211732/>

- 日本科学未来館「未来館のボランティアとは」
<http://www.miraikan.jst.go.jp/linkage/volunteer/>
- 金融広報中央委員会「知るぽると」
<http://www.shiruporuto.jp/index.html>

【資料】

(図表 1)

男女、年齢階級別貯蓄現在高及び年間収入（単身世帯）

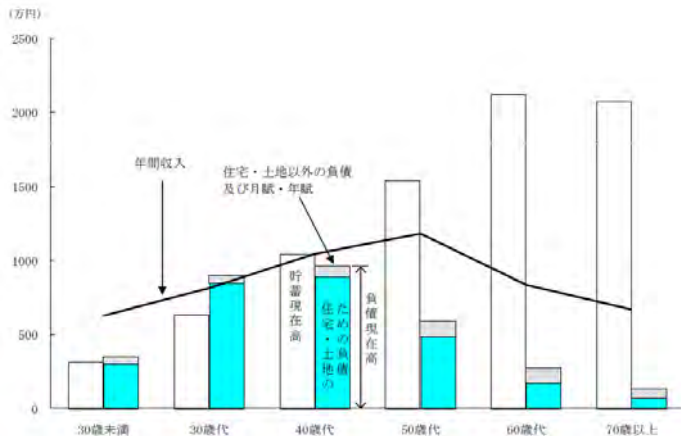


出典：統計局「平成 21 年全国消費実態調査 単身世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果の概要」

<http://www.stat.go.jp/data/zensho/2009/tanshin/pdf/gaiyo4.pdf>

(図表 2)

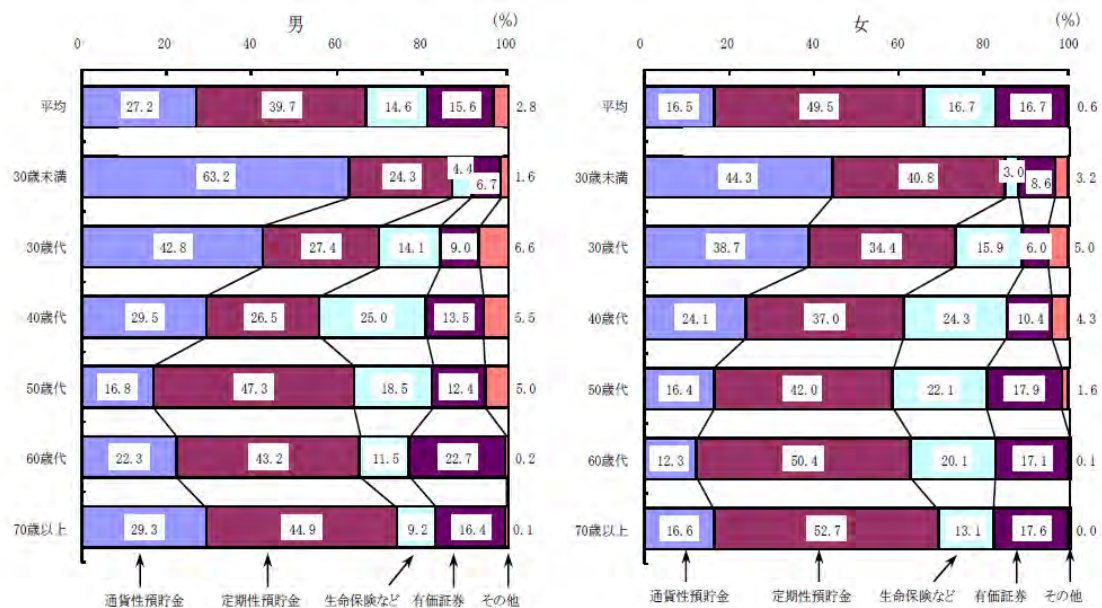
世帯主の年齢階級別年間収入及び貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）



出典：統計局「平成 21 年全国消費実態調査 二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果の概要」

<http://www.stat.go.jp/data/zensho/2009/hutari/pdf/gaiyo3.pdf>

(図表 3) 男女、年齢階級別貯蓄現在高の構成比 (単身世帯)



出典：統計局「平成 21 年全国消費実態調査 単身世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果の概要」

<http://www.stat.go.jp/data/zensho/2009/tanshin/pdf/gaiyo4.pdf>

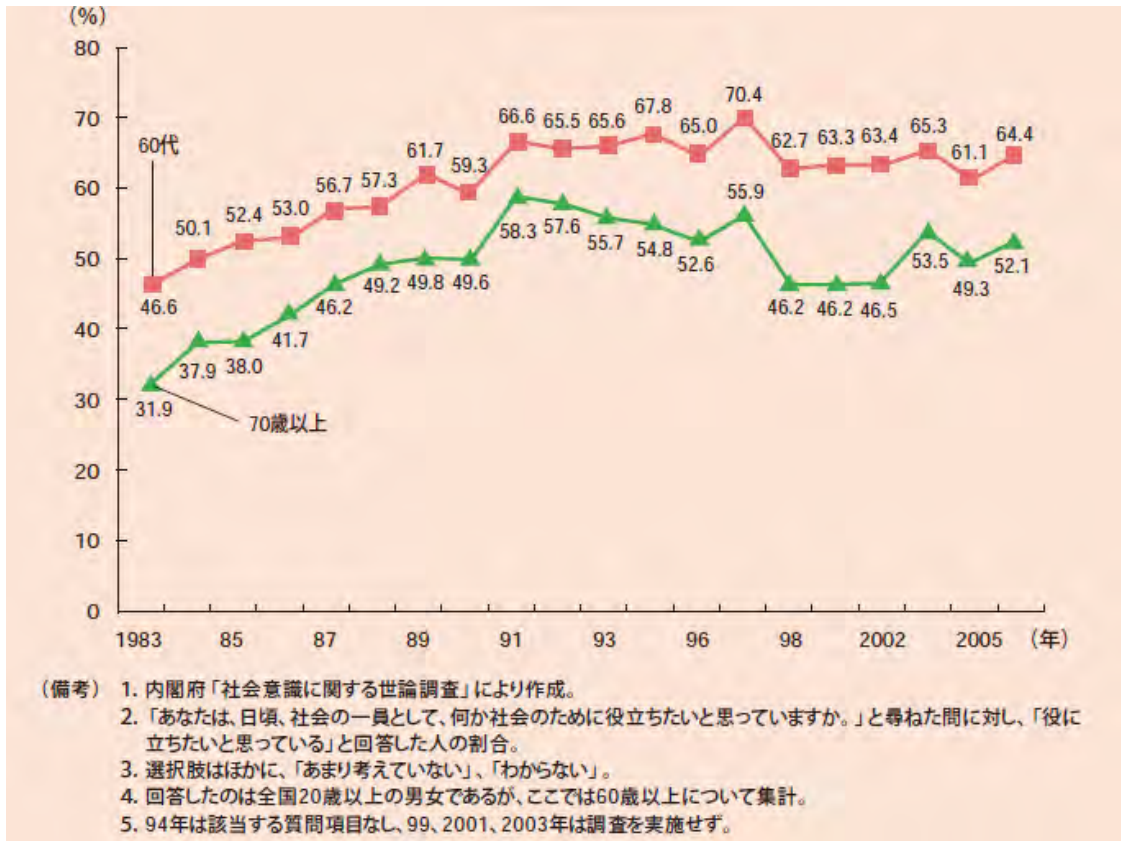
(図表 4) 高齢者 (70 歳以上) に急増した利殖商法

		23年度	22年度	21年度
70歳以上 全相談件数 ①		2,468	2,425	2,014
70歳以上 既契約額(千円) ②		1,773,320	1,606,960	1,409,747
利殖商法	ファンド型投資商品	75	22	9
	公社債	74	20	2
	株	48	26	13
	金融サービスその他	11	5	0
	その他	62	41	21
	件数 計 ③	270	114	45
	全体に占める割合(%)③/①	10.9	4.7	2.2
	既契約金額 計(千円) ④	664,749	402,019	89,126
	全体に占める割合(%)④/②	37.5	25.0	6.3

出典：福岡市消費生活センター「平成 24 年 6 月 27 日 記者発表資料」

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/1153/1/23ndsoudangaiyou2406.pdf>

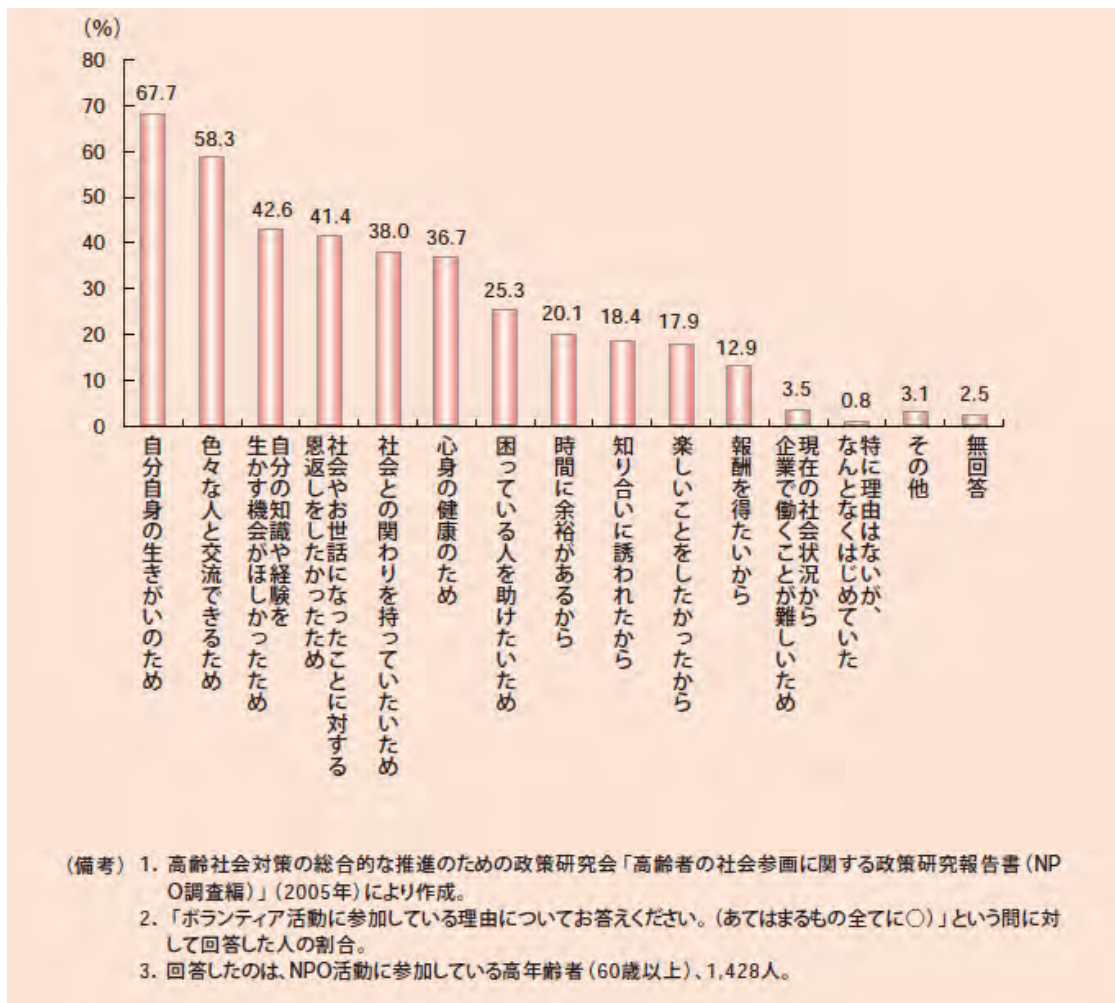
(図表 5) 高齢者の社会への貢献意識



出典：内閣府「平成 18 年版国民生活白書第 3 章第 3 節 高齢者の生活と社会貢献活動」

http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/10_pdf/01_honpen/pdf/06ks ha0303.pdf

(図表 6) 高齢者のボランティア活動への参加理由



出典：内閣府「平成 18 年版国民生活白書第 3 章第 3 節 高齢者の生活と社会
貢献活動」

http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/10_pdf/01_honpen/pdf/06ksha0303.pdf

(図表 7) 講義の広告例

出張知るぽると号



プロに教わる金融セミナー

日時: 12月1日(土)

会場: 専修いこいの場

費用: 無料!!



【タイムテーブル】

12:00~12:45 現預金

13:00~13:45 相談会

【セミナー内容】

あなたのお金は眠っていませんか？

今、眠っているそのお金を自分のために、日本経済のために運用してみましょう。そのために今回出張知るぽると号はあなたの町にやってきました。講師はもちろん!!プロの方をお招きしています。また、運用方法だけではなくあなたの資産を守ってゆく術も伝授いたします。

金融に詳しくない方にも詳しくご説明いたします。皆さんで楽しく一緒に学んでみませんか？

運営上の都合より

参加人数は**先着 20名**とさせていただきます。

【申し込み方法】

電話 : 090-0000-XXXX

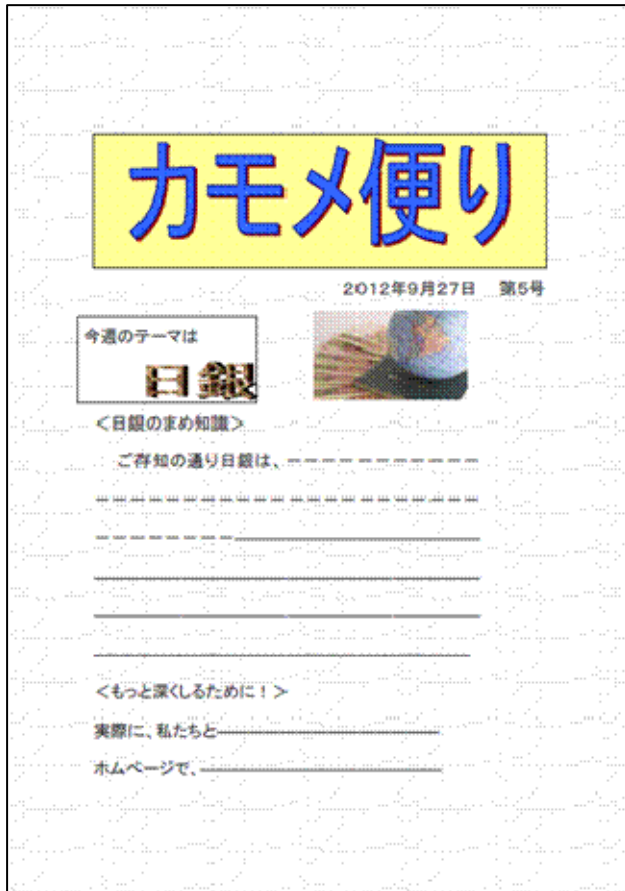
FAX : 043-0000-XXXX

e-mail : sensyuu.com

専修いこいの場で申し込むことも可能です。

お会いできることを楽しみにしています。

(図表 8) カモメ便りの作成例



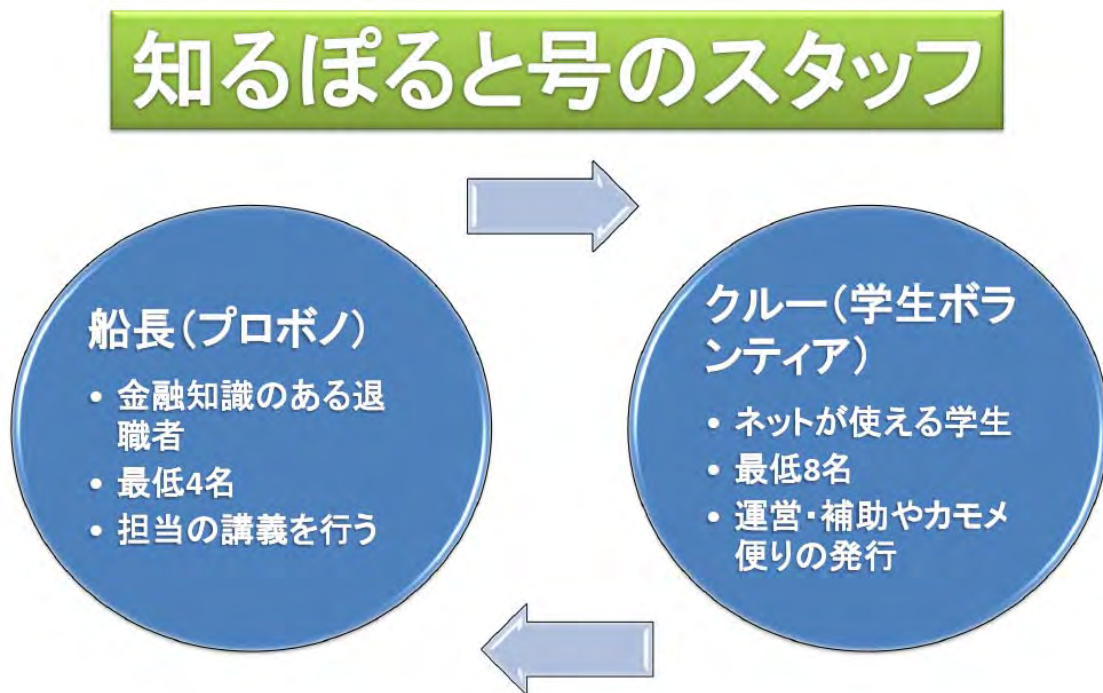
筆者作成

(図表 9) 知るぽると号の実施例の概要

実施の概要	
講義科目	実施頻度
<ul style="list-style-type: none">• 現預金• 公社債• 投資信託• 保険・共済• 金融商品選びのポイント• トラブルの対処方法	<ul style="list-style-type: none">• 講義<ul style="list-style-type: none">• 4か月に1度開催• 2年かけて一回転• カモメ便り<ul style="list-style-type: none">• 4か月に1度発行• 時期は講義とずらす

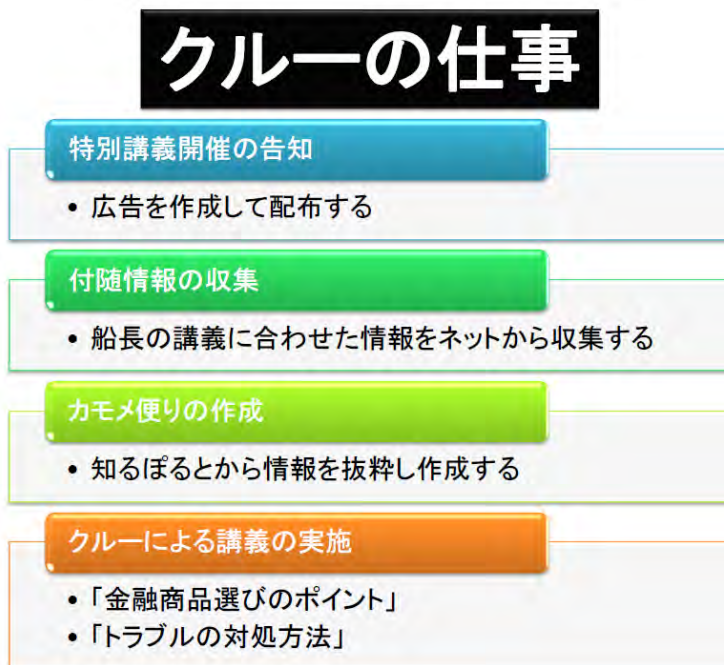
筆者作成

(図表 10) 知るぽると号のスタッフ



筆者作成

(図表 11) クルーの仕事



筆者作成